

技術概要書（様式）

※別紙2

| | | | |
|-----------|---|------|--------------|
| 技術分類 | <input checked="" type="radio"/> 安全・防災 <input type="radio"/> 維持管理 <input type="radio"/> 環境 <input type="radio"/> コスト <input type="radio"/> ICT <input type="radio"/> 品質 （該当分類に○を付記） | | |
| 技術名称 | プレキャストコンクリート製残置型枠工法 | 担当部署 | 経営企画部 |
| NETIS登録番号 | | 担当者 | 西田 薫 |
| 社名等 | (株) ヤマウ | 電話番号 | 092 872 3331 |
| 技術の概要 | <p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>「プレキャストコンクリート製残置型枠工法」は、コンクリート製の重力式係船岸（岸壁・物揚場）または同様の構造となる既存施設において、施設性能の維持・改善または向上のために実施される水中コンクリートによる「腹付け工」をPCa製残置型枠を用いて構築する工法である。従来工法は鋼製型枠を海中に設置し水中コンクリートを打設する方法をとっていたが、静穏度の高い港内でも波や流れの作用等により安全性が著しく低いため、その従来工法の課題解決をはかる工法として、効率的かつ安全に施工するために開発された技術である。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>「プレキャストコンクリート製残置型枠工法」とは、コンクリートの岸壁・物揚場を維持補修、改良する場合においてプレキャストコンクリートブロックを水中コンクリートの型枠として、そのまま現地に残地する工法である。</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>①日当たり施工量の増加（施工作业が標準化されているので、日当たり施工量が増加し工期が短縮） ②作業工程の合理化（型枠の整備スペースと整備作業、施工後の撤去作業が不要） ③作業安全性の向上（潜水士は型枠上部の開放空間で作業。型枠組立の高所作業がない） ④経済性の向上（腹付け幅1.0m未満でも施工可能で生コン量を低減。各段施工で重機規格を低減） ⑤漁港利用の合理化（泊地の面積減少を最小とする）</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>漁港のコンクリート製重力式係船岸（岸壁・物揚場）または同様の構造となる既存施設を対象にした「腹付け工」の計画・施工に適用。</p> <p>5. 活用実績</p> <p>国の機関 2 件（九州 0件、九州以外 2件） 自治体 89 件（九州 5件、九州以外 84件） 民間 0 件（九州 0件、九州以外 0件）</p> | | |

6. 写真・図・表

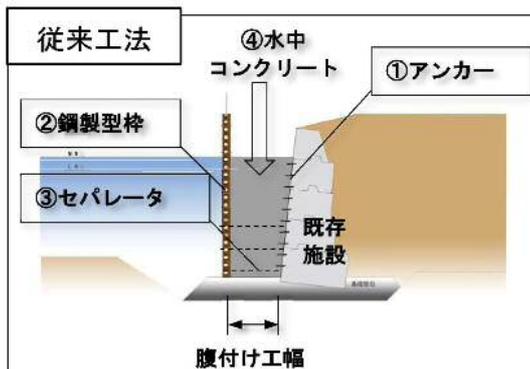


図 1-1 従来工法の施工概要



写真 1-1 従来工法の施工状況



写真 1-2 鋼製型枠内の潜水作業(例)



写真 1-3 鋼製型枠の被災(例)

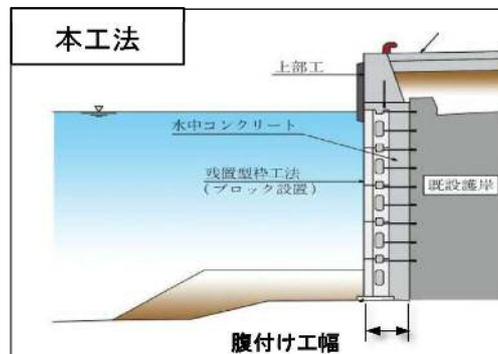


図 1-2 本工法の施工概要



写真 1-4 本工法の施工状況



写真 1-5 残置型枠の吊り込み状況(例)



写真 1-6 残置型枠の据付状況(例)